

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
統合分野 【在宅看護論】	在宅看護論概論		首藤八千子		○		
					看護師としての臨床経験を授業に活かす		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2020年入学生		
1	15	1	後期				
学習内容	在宅看護の対象である療養者とその家族を理解し、在宅(終の棲家として生活する場)において療養生活を支える看護の概要を学ぶ						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	在宅看護の概念を理解する	○			○	
	2	在宅看護が必要とされる社会背景と地域包括ケアシステムの考え方を理解する	○			○	
	3	在宅看護に必要な法制度とその活用について理解する	○			○	
	4	地域包括ケアシステムにおいて「施設内」と「在宅」を切れ目なくつなぐ看護の役割について理解する	○			○	
	5	多職種と連携しつつ、医療と生活の両面から支援する在宅看護の役割を理解する	○			○	
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考(講師名)		
	1	在宅看護の概念を理解する	講義		首藤八千子		
	2	在宅看護が必要とされる背景を理解する	講義		首藤八千子		
	3	在宅看護に必要な制度を理解する(介護保険の理解)	講義		首藤八千子		
	4	在宅看護に必要な制度を理解する(障がい者総合支援法, 生活保護法など)	講義		首藤八千子		
	5	訪問看護制度を理解する(介護保険による訪問看護と医療保険による訪問看護)	講義		首藤八千子		
	6	訪問看護制度を理解する(在宅医療と訪問看護ステーション, 訪問看護の経営と管理)	講義		首藤八千子		
	7	在宅看護と多職種連携を理解する	講義		首藤八千子		
	8	在宅看護の姿勢と考え方を理解する	講義		首藤八千子		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
授業時間外に必要な学習	パフォーマンス課題への取り組み(後日プレゼンテーション)						

使用参考教科書	在宅看護論 南江堂 医療福祉総合ガイドブック						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業への取り組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○			○		
	到達目標2	○			○		
	到達目標3	○			○		
	到達目標4	○			○		
	到達目標5	○					
(自由記述欄) 評価方法	筆記試験 パフォーマンス課題						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージその他	履修にあたっての留意点						

分野		科目名		担当教員		実務経験の有無	
						有	無
統合分野 【在宅看護論】		在宅看護論方法論		首藤八千子		○	
						看護師としての臨床経験を授業に活かす	
科目単位数	時間	対象学年		開講時期		2020年入学生	
1	15	1		後期			
学習内容	在宅における看護技術の特徴を理解し看護が果たす役割を踏まえて、療養者や家族の生活に合わせてどのように工夫し、また多職種とどのように連携して適応させるのかを学ぶ。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	在宅療養者に対して「予測・予防」「自立支援」を看護の介入の中心においた、在宅で継続できる援助の方法を理解する	○	○	○		
	2	在宅ケアチームとして多職種が連携した援助の在り方を学ぶ	○	○	○		
	3						
	4						
	5						
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	訪問看護ステーションとは 在宅看護過程	講義		首藤 八千子		
	2	在宅看護におけるヘルスアセスメント/服薬管理	講義・自学		首藤 八千子		
	3	HOTと呼吸リハビリテーション/在宅輸液療法(HPN)ポートによる方法	講義・自学		首藤 八千子		
	4	在宅人工呼吸療法(HMV)/腹膜透析	講義・自学		首藤 八千子		
	5	在宅経腸栄養法(PEG)/膀胱留置カテーテルと間欠的自己導尿法	講義・自学		首藤 八千子		
	6	疼痛管理終末期ケア/褥瘡の予防とケア	講義・自学		首藤 八千子		
	7	ストーマケア/清潔ケア	講義・自学		首藤 八千子		
	8	排泄ケア	講義・自学		首藤 八千子		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
授業時間外に必要な学習	自己学習をしてGWに望む。自己学習内容はポートフォリオに綴じる。						
使用参考教科書	在宅看護論 南江堂 見てできる臨床ケア図鑑 在宅看護ビジュアルナーシング 学研 参考文献 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院 インターネットによる検索可(ただし、著者・発行年・タイトル・URLなどを必ず記入)						

成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとり組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○		○	○		
	到達目標2	○		○	○		
	到達目標3						
	到達目標4						
	到達目標5						
(自由記述欄) 評価方法	ポートフォリオ内容 筆記試験						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージ その他	履修にあたっての留意点						

分野	科目名		担当教員	実務経験の有無				
				有	無			
統合分野 【在宅看護論演習】	在宅看護論演習							
	(様々な状況にある在宅療養者の看護展開)		首藤 八千子	○	看護師としての臨床経験を授業に活かす			
	(地域包括支援センターの役割)		大原 千香子	○	保健師としての臨床経験を授業に活かす			
	(地域包括ケアシステムとマネジメント機能)		山本 幸子	○	看護師としての臨床経験を授業に活かす			
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2020年入学生				
1	30	2	前期					
学習内容	1)生活モデルで看護過程の展開を行うことで、「療養者・家族の思いや望みを達成する」ことを最終目標とする在宅看護のあり方が理解できるようになる。 2)地域包括支援システムの概要を理解し、地域の中で医療と生活の両面から対象のQOLを考えて活動する看護師の対象のとらえ方と看護介入のあり方を理解できるようになる。							
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度	
	1	1. 療養者の思いや望みを達成する在宅看護の展開方法を理解できる	○	○	○			
	2	事例の対象の置かれた状況を捉えQOLの向上を目指した看護介入の必要性を根拠を明確にしてとらえる。看護計画を立案し、訪問場面の援助計画を構成することができる	○	○	○	○	○	
	3	入退院支援と看護職の連携	○	○	○	○		
	4	地域包括支援センターの活動の実際とマネジメント機能	○	○		○		
	5							
授業計画	No.	授業内容	授業方法	備考 (講師名)				
	1	在宅看護の展開の特徴(ICFモデルで生活機能をとらえる/セルフケアの視点で看護介入の在り方を考える)	講義	首藤八千子				
	2	在宅看護過程の展開: パーキンソン病の療養者の事例で看護の展開を理解する	講義	首藤八千子				
	3	事例:ALSにて人工呼吸器をつけた療養者の在宅看護	GW・演習	首藤八千子				
	4	事例:COPDでHOTをしながら生活している療養者への看護		首藤八千子				
	5	事例:脳梗塞後遺症にて自宅退院した療養者への看護		首藤八千子				
	6	事例:グループホームで暮らす統合失調症の療養者への看護		首藤八千子				
	7	事例:肺がん末期の在宅療養者への看護		首藤八千子				
	8			首藤八千子				
	9			首藤八千子				
	10			首藤八千子				
	11			首藤八千子				
	12	様々な疾患や療養生活を送る療養者の在宅看護の実際		シュミレーション	首藤八千子			
	13	様々な疾患や療養生活を送る療養者の在宅看護の実際		シュミレーション	首藤八千子			
	14	地域包括支援センターの実際と看護の機能	講義	大原千香子				
	15	地域包括ケアシステムとマネジメント機能	講義	山本幸子				
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
23								

授業時間外に必要な学習	授業時間で不足があれば主体的に時間外の時間を使ってグループワークをする (事例の看護の展開と援助計画の立案・援助計画・訪問場面のシミュレーション計画)						
使用参考教科書	在宅看護論 南江堂 見てできる臨床ケア図鑑 在宅看護ビジュアルナーシング 学研 参考文献 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院 その他、専門基礎科目で使用したテキスト全般						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業への取り組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○		○	○	○	
	到達目標2	○		○	○	○	
	到達目標3	○		○	○	○	
	到達目標4	○					
(自由記述欄) 評価方法	在宅看護過程において基礎的知識を問う						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージその他	履修にあたっての留意点						

分野	科目名		担当教員	実務経験の有無			
				有	無		
統合分野 【看護の統合と実践】	看護管理		後藤 鈴子	○			
				看護師としての臨床経験を授業に活かす			
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2020年入学生			
1	15	2	前期				
学習内容	看護管理は看護管理者だけのものではなく、看護学生を含めてすべての看護職が看護活動を効率的、効果的、創造的に行うために必要な能力である。基礎的知識を基に看護活動の場で看護の動向のあり方を将来にわたって発展的に追及する姿勢を学ぶ。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	社会人になるということ	○	○	○	○	○
	2	看護活動をとりまく法律・制度	○	○		○	○
	3	援助提供に対する看護者の姿勢と責任 コミュニケーション能力(人と人の関わり)事例を通して	○	○	○	○	○
	4	個人情報を取り扱う際の責任と義務	○			○	○
	5	看護師の一日から看護管理をする	○	○	○	○	○
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	私たちは何のために働くのか	講義		後藤 鈴子		
	2	観察・報告をしよう 援助提供に対する看護者の姿勢と責任	講義・グループワーク		後藤 鈴子		
	3	観察・報告をしよう 援助提供に対する看護者の姿勢と責任	講義・グループワーク		後藤 鈴子		
	4	看護技術で看護者倫理綱領・小テスト	講義・グループワーク		後藤 鈴子		
	5	基礎看護2例、個人情報取り扱い事例	講義		後藤 鈴子		
	6	場面で学びましょう 呼吸困難、嚥下困難、浮腫、発熱	講義・グループワーク		後藤 鈴子		
	7	場面で学びましょう 呼吸困難、嚥下困難、浮腫、発熱	講義・グループワーク		後藤 鈴子		
	8	場面で学びましょう 呼吸困難、嚥下困難、浮腫、発熱	講義・グループワーク		後藤 鈴子		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							

授業時間外に必要な学習							
使用参考教科書	メディカ出版 看護の統合と実践① 看護管理の教本 資料プリント						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとり組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○	○		○		
	到達目標2	○	○		○		
	到達目標3	○	○		○		
	到達目標4	○	○		○		
	到達目標5	○	○		○		
(自由記述欄) 評価方法	筆記試験						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージ その他	履修にあたっての留意点						

分野		科目名		担当教員		実務経験の有無	
						有	無
統合分野 【看護の統合と実践】		医療安全 (医療安全 総論) (医療安全の現状)		安部三枝子		○	
				安部三枝子		○	
						看護師としての臨床経験を授業に活かす	
科目単位数	時間	対象学年		開講時期		2020年入学生	
1	15	1		後期			
学習内容	医療事故は日常の看護で発生しやすいことを認識し、質の高い医療を提供するために必要な医療事故防止の基本的知識を学ぶ。安全レポートの視点を持つことができ、振り返りの必要性を理解する。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	日常の看護で医療事故が発生する状況を理解する	○				
	2	医療事故が発生する要因を理解する	○				
	3	安全について振り返る必要性を理解する		○			
	4	医療事故の要因を元に具体的対策を導く思考を理解する		○			
	5	医療暗線の現状を元に看護師に求められる医療安全対策を理解する	○				
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	人はなぜエラーを起こすのかインシデントとアクシデント安全レポートの考え方・書き方を理解する	講義		安部三枝子		
	2	実習で安全を脅かすことを共有し振り返る	講義		安部三枝子		
	3	医療事故・看護事故 診療の補助・日常生活の援助の際の看護事故(介入時と非介入時の考え方) 事例を用いてPCAの思考から要因を考える①	講義		安部三枝子		
	4	PCA なぜなぜ分析の考え方② 事例をもとになぜなぜ分析を行う	講義・GW		安部三枝子		
	5	PCA根本原因分析法③:事例のGWを元に考える。論理的思考と看護に必要な思考について資料を基にKYTの必要性を考える	講義		安部三枝子		
	6	医療安全管理体制の組織的取り組み 安全な医療を提供するための10の要点、5Sと医療安全	講義		安部三枝子		
	7	実習で生じやすいヒヤリ・ハットの要因を考える	講義		安部三枝子		
	8	医療事故防止対策 患者誤認・コミュニケーション	講義		安部三枝子		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
授業時間外に必要な学習	事故を元に自己学習しグループワークに臨む						

使用参考教科書	系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践〔2〕 医学書院 PCA根本原因分析法 実践マニュアル 医学書院 医療安全 患者の安全を守る 看護の基礎力・臨床応用 Gakken						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとり組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	<input type="radio"/>					
	到達目標2	<input type="radio"/>					
	到達目標3	<input type="radio"/>					
	到達目標4	<input type="radio"/>					
	到達目標5	<input type="radio"/>					
(自由記述欄) 評価方法	筆記試験にて100点評価						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージ	履修にあたっての留意点						

分野	科目名		担当教員	実務経験の有無			
				有	無		
統合分野 【看護の統合と実践】	災害看護 (災害時の看護)		造士真理子	○	看護師(DMAT隊員)としての実務経験を授業に活かす		
	(急変時の対応:救急法)		別府市消防本部	○	消防士としての実務経験を授業に活かす		
	(DMAT・トリアージの実際)		市村 誉	○	医師(DMAT隊員)としての実務経験を授業に活かす		
	(国際看護活動の支援と実際)		上村美和	○	看護師として海外の実務経験を授業に活かす		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2020年入学生			
1	30	1	前期				
学習内容	災害直後から支援できる看護の基礎知識について学び看護活動の場やあり方を理解する。救急法を身につけDMAT(災害派遣医療チーム)の訓練への参加を通して、災害時における看護師の役割を理解する。また、国際社会の現状を理解し海外における看護活動の必要性と災害発生時の看護援助の在り方を理解する						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	災害医療の基礎知識を学ぶ	○				
	2	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護の在り方と被害者特性に応じた看護の展開を学ぶ	○				
	3	DMAT・トリアージの実際を学ぶ	○				
	4	救急処置について学ぶ	○			○	
	5	国際看護学の概念と文化を考慮した看護を学ぶ	○		○	○	
授業計画	No.	授業内容	授業方法	備考 (講師名)			
	1	災害看護の歩み	講義	猪口 典子			
	2	災害医療の基礎知識(災害の定義・災害の種類と健康障害)	講義	猪口 典子			
	3	災害看護の役割・被災病院における初動体制と重傷病者受け入れ	講義	猪口 典子			
	4	避難所の看護活動	講義	猪口 典子			
	5	トリアージの実際と二次トリアージについて学ぶ	講義	猪口 典子			
	6	慢性期・復興期の看護	講義	猪口 典子			
	7	静隠期の看護 被災者特性に王板災害看護の展開	講義	猪口 典子			
	8	救急法	演習	別府市消防本部			
	9	救急法	演習	別府市消防本部			
	10	災害総論(医師の立場から)	講義	市村 誉			
	11	トリアージの実際 (START包 PAT法)	演習	市村 誉			
	12	国際看護 世界の現状	講義	上村 美和			
	13	国際看護 異文化の理解	講義	上村 美和			
	14	国際看護 GW	演習	上村 美和			
	15	国際看護 GW	演習	上村 美和			
	16						
	17						
	18						
	19						
20							

	21						
	22						
	23						
授業時間外に 必要な学修							
使用教科書	系統看護学講座 統合 災害看護・国際看護 看護の統合と実践③ 医学書院						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとり くみ状況	6.その他 (備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2	○					
	到達目標3	○					
	到達目標4	○					
	到達目標5	○					
(自由記述欄) 評価方法	筆記試験 救急法は出席状況						
成績評価の 基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージ その他	履修にあたっての留意点						

分野		科目名		担当教員		実務経験の有無	
						有	無
統合分野 【看護の統合と実践】		緩和ケア		水野佳代		○	
						看護師としての臨床経験を授業に活かす	
科目単位数	時間	対象学年		開講時期		2020入学生	
1	15	1		後期			
学習内容	人間はあらゆる健康水準の中や成長発達過程の中で身体的苦痛のみでなく精神的苦痛・社会的苦痛に出会う。身体的苦痛の緩和の理論的解決に向けての知識を基に、精神的苦痛や社会的苦痛の緩和の方法を学ぶ。また、看護師の役割の中に対象者を取り巻く人々に対する協力を促すケアの必要性を見出すことができる						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	緩和ケアの歴史と理念、我が国における位置づけ、さらに看護の中で緩和ケアの専門性はどのように発展しているか理解する	○				
	2	緩和ケアにおけるチーム医療の在り方を学び、看護師としての役割とチームにおけるリーダーシップについて理解する	○				
	3	緩和ケアにおける倫理的課題と意思決定支援について理解する	○				
	4	緩和ケアにおける看護介入と身体症状のマネジメントとケアについて理解する	○				
	5	精神的ケア・社会的ケア・スピリチュアルケアについて理解する	○				
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	緩和ケアの歴史と現状・緩和ケアにおける看護師教育	講義		水野佳代		
	2	チーム医療・緩和ケアにおける倫理的課題	講義		水野佳代		
	3	緩和ケアにおけるコミュニケーションと意思決定支援	講義		水野佳代		
	4	緩和ケアの対象者と緩和ケアにおける看護介入	講義		水野佳代		
	5	身体的ケア	講義		水野佳代		
	6	身体的ケア	講義		水野佳代		
	7	社会的ケア・家族ケア	講義		水野佳代		
	8	心理的ケア・スピリチュアルケア	講義		水野佳代		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
外に必要 な学習時間							
使用教科書 参考書	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院						

成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業への取り組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2	○					
	到達目標3	○					
	到達目標4	○					
	到達目標5	○					
(自由記述欄) 評価方法	筆記試験						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージ その他	履修にあたっての留意点						

分野		科目名		担当教員		実務経験の有無	
						有	無
統合分野 【臨地実習】		在宅看護論実習		首藤八千子		○	
						看護師としての臨床経験を授業に活かす	
科目単位数	時間	対象学年		開講時期		2020年入学生	
2	90	2		前期			
学習内容	<p>生活の場である在宅において療養する人々とその家族の健康上の諸問題や生活課題を理解し、援助の主体は療養者と家族であることを念頭に対象に合った在宅における看護活動を学ぶ。在宅療養支援として保健・医療・福祉における社会資源の内容や活用の実際とそこにおける多職種連携と看護の役割を学ぶ。また地域包括支援センターの役割と予防や自立に向けたマネジメントの在り方を学ぶ。</p> <p>【在宅看護論実習目的】 在宅で生活する療養者とその家族を統合的に理解し、それらの人々が望んでいる生活や生き方ができるような看護を実践できる基礎的な能力を身につける。</p>						
到達目標	No.	到達目標					
	1	在宅療養者の健康障害や障害に伴う療養者と家族の生活への影響を、病状・病態の変化の予測とセルフケアの視点からアセスメントし、QOL向上に向けた看護介入の必要性を理解できる。					
	2	療養者の健康状態や介護の状況を判断し今後の変化を予測して、看護支援や援助方法を判断し、実施するという訪問看護活動を理解できる。					
	3	療養者と家族を尊重し、セルフケア能力に合わせて様々に工夫することで、自立に向けて支援の在り方を理解し、指導者と共に実施できる。					
	4	療養者や家族を支援するケアシステムとケアチームにおける連携の実際を理解し看護の役割を見出すことができる。					
	5	地域包括支援センターの事業の実際からケアマネジメントの機能を知り、保健・医療・福祉をつなぐ看護の役割を理解できる。					
	6	在宅療養者と家族の生活や在宅看護の実際場面に真摯に向き合い、「主体性と満足感をもたらす看護の責任」について主体的に追求し、自己の課題と共に表現できる。					
実習計画	講義内容・授業計画(配当時間を含む)						
	【実習施設】						
	大分市東部訪問看護ステーション		訪問看護ステーションサンライズ・ビュー				
	創生の里訪問看護ステーション		湯のまち訪問看護ステーション				
	別府市地域包括支援センター(五十音順)						
	朝日地域包括支援センター		中部地域包括支援センター		鶴見台地域包括支援センター		
	浜脇地域包括支援センター		北部地域包括支援センター		山の手地域包括支援センター		
	【実習期間・実習時間】						
	実習期間: 令和3年5月24日～8月11日			実習時間: 8:30～17:00			
	訪問看護ステーション実習9日間 地域包括支援センター実習2日間 学内実習1日 学びの共有11月						
	【実習方法】						
	訪問看護ステーション実習: 受け持ち療養者1名の看護過程の展開(一部援助の実践) 訪問看護師に同行(2～4件/日)して見学・指導者の行う援助に参加し学ぶ						
地域包括支援センター実習: 指導者と同行し見学(サービス担当者会議や地域ケア会議,健康教室などに参加)							

<p>評価方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「在宅看護論実習ルーブリック評価表」を用いて評価する ・評価者(実習指導者,教員)
<p>使用参考教科書</p>	<p>在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 見てできる臨床ケア図鑑 在宅看護ビジュアルナーシング 医療福祉総合ガイドブック 他の看護学実習で使用するテキスト・参考文献を使用</p>
<p>履修にあたっての留意点 学修へのメッセージ その他</p>	<p>2025年、世界に例を見ない超高齢化社会を迎えることになる日本は、地域包括ケアシステムが推進されています。医療は「病院完結型」から「地域完結型」をめざし、多職種連携の必要性を迫られています。看護師の就業の場が病院であれ、地域であれ人々が地域で健康問題を持ちつつ暮らすことを支援することが求められています。看護基礎教育の中で在宅看護論を学ぶことの意味を捉え、主体的な学びへとなることを期待します。</p>

分野	科目名	担当教員	実務経験の有無	
			有	無
統合分野 【臨地実習】	看護統合実習	全教員	○	
			看護師としての臨床経験を授業に活かす	
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2020年入学生
2	90	2	後期	
学習内容	基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱの学習内容を統合し、実務に即した実習をすることで看護実践力向上のための土台とする。 【実習目的】 看護管理の実際を基に組織の一員として責任ある行動を考え、看護師に求められる役割を理解し看護を実践する能力を養う			
到達目標	No.	到達目標		
	1	病院・病棟における看護管理・医療安全の実際から学生としての責任ある行動について理解できる。		
	2	リーダー実習・夜間実習を通して看護チームにおけるリーダーシップ・メンバーシップを理解し、組織の一員としての行動ができる。		
	3	複数患者の状態を把握し、患者のニーズを充足するよう優先順位を考え援助を実施できる。		
	4	状況に応じて関係者と相談の上時間調整し、必要な援助を実施することができる。		
	5	専門職業人として責任感・倫理観を持ち、自己の役割を果たせるよう主体的に行動できる。		
	6	臨地実習を通して看護観を表現することができる。		
授業計画	講義内容・授業計画(配当時間を含む)			
	【実習施設】			
	大分医療センター 大分中村病院 大分県厚生連鶴見病院			
	【実習期間・実習時間】			
	実習期間:11月25日～12月10日(12日間) 内1日間夜間実習 11:00～20:00			
	実習時間:8:30～17:00			
	【実習方法】			
	看護管理実習:病院・看護部の組織を知るためにトップマネージャーの説明を受ける 病棟管理者(看護師長)と同行し、病棟管理者の役割を学ぶ			
	夜間実習:夜間(就寝前まで)の時間の実習。夜間の看護師に同行して学ぶ			
	リーダーシップ・メンバーシップ :その日のリーダーに同行してリーダーの役割を学ぶ :メンバーシップはチームの一員として受け持ち患者の看護の展開を行うことで学ぶ			
多重課題実習:複数患者(2名)を受け持ち看護を展開する。実習1週目は1人目,2週目は2人目の患者を受け持つ				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護統合実習ルーブリック評価表」を用いて評価する ・評価者(実習指導者,教員) 			
使用参考教科書	看護の統合と実践①看護管理 ナーシング・グラフィカ 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3]医療安全 その他、専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱの授業で指定しているテキストを使う			

卒業時点である一定の看護実践能力を備えていることが求められている。求められる看護実践力は1)ヒューマンケアの基本に関する実践能力 2)看護の計画的展開能力 3)特定の健康問題を持つ人への実践能力 4)ケア環境とチーム体制整備能力 5)実践の中で研鑽する基本能力と言われています。この項目を更に具体的に看護統合実習期間に求めるものとして看護統合実習目的・目標を定めています。できるだけ臨地に近い実習を組み立てたいが限界もあります。臨床で働く自分をイメージしながら、組織の一員・チームの一員として対象のニーズにこたえられる看護の追及ができるようになってほしいと思います。